

シェイクスピア作「ハムレット」市河三喜、松浦嘉一訳 岩波文庫、岩波書店 1949 年 7 月 10 日刊
を読む

1. レアティーズ、まだこゝにかい？困った奴だな！さあ、乗込んだり、乗込んだり。帆はとうに風をはらんで、みんなが待っている。それ！わしの祝福を受けなさい。
2. これから言って聞かせる戒めを心にちゃんと刻み付けておくがよい。
 - (1)自分の考をめったに口外せぬこと、
 - (2)また、突飛な考を実行するもんじゃない。
 - (3)うちとけるのはよいが、決してなれなれしくするなよ。
 - (4)良いと思った友だちが出来たら、鋼のたがでしっかり心へ巻付けておけ。
 - (5)だが、まだ卵からかえったばかりのひよっこのような仲間のだれかれと手を握って、掌が馬鹿になってしまつてはいかぬぞよ。
 - (6)けんかにはいるなよ。
 - (7)だが、はいった上は、相手がお前を警戒するようになるまでやってのけろ。
 - (8)だれの言葉にも耳を貸すのはよいが、いろんな人に口をきくものじゃない。
 - (9)みんなの意見は聞いて、自分の判断はひかえなさい。
 - (10)財布の許す限り身装には金目をかけてよい。
 - (11)しかし、派手や気障に金をかけるものじゃない。
 - (12)華美を避け、質の良いものを着なさい。
 - (13)服装で人柄が分かるからな。
 - (14)フランスの上流の人たちは、この道のあか抜けした、生まれながらのくろうとだよ。
 - (15)それから、金の貸手にも借手にもなるなよ。
 - (16)金を貸すと、金も友だちもなくしてしまう。
 - (17)金を借りると、儉約の心が鈍くなる。
 - (18)最後に何よりも大事なことは、己れに忠実であれということ、すれば、自然、夜が昼に続くように間違いなく、だれにも不忠実にはなれないものだ。
3. では、機嫌よう一願くはこの戒めが、お前の心に深くしみ込むよう神に祈りまする。

<コメント>

イギリスの人々はじめ多くの人々はなぜ「ハムレット」を繰り返し読み、人生の友とするのか。この「書き抜き」は、主人公ハムレットの親友レアがフランスに留学する際にレアの父、ポロが「戒め」のことばを述べる場面です。シェイクスピアは 37 作品の中で人生に役立つ素晴らしい教訓を読者に伝えています。シェイクスピアの作品を何回か読み、劇場で鑑賞する間に多くの人々が数多くのことを学んでいると思われます。是非、ご一読ください。